

日本福祉大学 松本オフィス 第18号 松本オフィス通信

INDEX

■ 長野出身の学生奮戦記 1	■ 大学を体感しよう 3
■ 2016 信州+(プラス) 2	・高遠高校大学体験
・辰野町横川地区 御柱祭	・2016年OCバスツアー
・もみじ祭りアンケート調査	■ 私の仕事
・元辰野町地域おこし協力隊	・福祉大卒業生は今
・村上君の実践報告	■ インフォメーション 4
・ゲスト講義を開催	

長野県出身の学生奮戦記!

文武両道の学生生活
社会福祉学部

社会福祉学科 3年

藤巻 佳穂



大学祭 長野県人会模擬店の前で

長野県人会では、学部・学年問わず活動しています。

新入生歓迎会から県人会対抗のスポーツ大会、大学祭に追い出しコンパなど、役員を中心としたいろいろな企画を運営し仲を深めています。学部・学年さらに県も越え大勢の人と仲良くなるチャンスがあり、今年の大学祭では、大人の方が運営する名古屋長野県人会の方と知り合うことができました。各行事への参加者が少なく固定されてしまっていることが現在の課題です。

地元信州での実習を通じて

長野県にある特別養護老人ホームで実習をさせていただきました。座学では感じることができない施設現場の現状や、実際の多職種連携を学ぶことができたと同時に、自分には足りないコミュニケーション能力や、基本的な福祉サービスの理解など、これからの大学生活での課題も見つけることができました。

また、様々な専門職の業務を知ることができたおかげで、視野を広く持つ事ができ、就職に関して自分の中にあつた漠然とした希望

の中で職種を絞り込むことができたと実習でもありました。

ゼミでは、メイン活動として佐渡島にフィールドワークに行き、伝統文化と芸能活動を学びました。地域の芸能文化にも触れることができ、さらに地域住民との懇談会の中で、実際の地域福祉の課題や要望など生の声を聞くことができました。

残りの大学生活の抱負

サークルでは、バレーボールをしています。人数が少なく寂しいときもありますが、みんな講義やアルバイトの合間をぬって練習に参加し、昇格・残留という目標に向けて日々切磋琢磨しています。今回の大会ではひとつ上の部へ昇格することができました。

大学生活も折り返し地点を超えて、気がつけば残り1年となつてしまいました。今後も多くの人とかかわりを持ち、思い出を増やしていきたいと思っています。

大学での勉強に加えて、社会福祉士国家試験に向けての勉強、アルバイト、サークルとありますが、文武両道で生活をしていきたいと思えます。

特に社会福祉士の勉強には力を入れながら、同時に就職対策の講座にも積極的に参加して、就職スキルや社会人スキルを身につけていきたいと考えています。

(長野県人会長 大町高校出身)



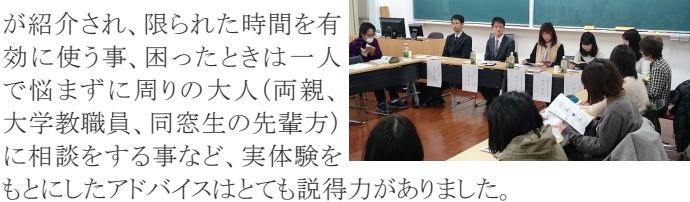
みんなで信州へ帰ろう Uターン就職相談会を実施!

3年生の就職活動が、2017年3月1日(水)より始動するにあたり、松本オフィスではキャリア開発課、長野県地域同窓会、そして長野県人会と協力し、2017年2月11日(土)に美浜キャンパス内で「Uターン就職相談会」を実施しました。

第1部では、キャリア開発課から「Uターン就職で知っておくべきこと」や「大学で受けられる就職支援」の紹介と、これまで全国400以上の大学・約3万人の学生が利用している「キャリアぷら」による就活講座が行われ、テーマは「日福生がUターン就職をするときに【武器】となるものを知っていますか?」。

就活ワークスの神瀬さんより、有効求人倍率から見る現状や企業側の視点など就職必勝ポイントを説明される中、学生は真剣にメモを取り、また複数業界の企業人事への質疑応答では、積極的に質問をする学生が多く、講師の神瀬さんも「こんなに質問が出る大学は珍しい」と驚くほど絶えず手が挙がりました。

第2部では、「同窓生・内定者と一緒に考える 信州へのUターン」と題し、卒業生の伊藤直哉さんと宮澤輝彦さん、内定者(4年生)の3名を囲み、Uターン就職活動に向けて情報交換と相談会を実施しました。4年生の先輩からは、就活スケジュールのたて方や参考にしていただいていた就活サイト、長野県内の就職情報の集め方



が紹介され、限られた時間を有効に使う事、困ったときは一人で悩まずに周りの大人(両親、大学教職員、同窓生の先輩方)に相談をする事など、実体験をもとにしたアドバイスはとても説得力がありました。

また、卒業生の2人からは、企業や施設がどんな人材を求めているのか、Uターン就職にあたって準備しておくべきことなど、ご自身の体験をもとにアドバイスをいただきながら、同時に、施設や企業・地域の情報収集をすること、自分自身の強みや弱みを把握すること、どんな大人になりたいのかイメージすることなど、これから学生自身一人ひとりが考えるべき課題も挙げられました。

参加した学生からは、「不安はたくさんあるけれど、地域ブロックセンターや同窓会等のネットワークをフル活用して、就職活動を始めてみようと思います。ここまでサポートしてくださる環境が整っている事、大変心強いです!がんばります」との意気込みが聞かれました。

これから本格的に就活がスタートしますが、自分のペースで自分が納得できる就職活動を進めてほしいと願っています。3月11日(土)に松本市内でも就職相談会を開催します。(要申込)職種別、分野別の相談会となりますので、春休み帰省されている方は、ぜひご参加を!



2016信州+（プラス） -地域を知り、人々をつなぐ-

社会福祉学部と経済学部合同の地域研究プロジェクト「ボランティアコーディネートプロジェクト」が長野県辰野町川島地区で、経済学部が伊那市高遠町でアンケート調査の活動を行いました。

経済学部の学生が、辰野横川御柱祭に曳き手として参加！

地域研究プロジェクト「ボランティアコーディネートプロジェクト（担当教員：後藤順久経済学部教授）」の学生らが辰野町横川御柱祭に曳き手として参加しました。



御柱祭は7年に1度行われる歴史あるもので、地域住民が曳き手を担ってきましたが、これまでの活動が評価され、地域の招きに応じて参加しました。

学生たちは地域文化に関わる取り組みに参加し、歴史の重みや伝統を改めて認識し、これからの活動に向けた多くのヒントを得た様子でした。

高遠高校と日福経済学部生がもみじ祭り来場者にアンケート調査を実施



11月6日（日）、経済学部と長野県高遠高校の生徒が、高遠城址公園もみじ祭り来場者へのアンケート調査を合同で実施し、学生や高遠高校の生徒など約30人が参加しました。

当調査は今回が4回目の実施となります。これまでの結果は伊那市観光協会に報告され、同祭における広報物の改善や祭りの名称変更における参考資料となるなど、着実に成果を残してきています。



学生・生徒たちは、会場までの交通手段やその経路、祭りへの期待、来場後の予定などを調査し、約150枚のアンケートを回収しました。また、来場者の動きなどを確認する目的で行動観察調査も合わせて行われ、学生や生徒たちは年齢構成やその人数、移動ルート、滞在時間などを目視し、約50人の動向を調査しました。

調査した結果を12月5日（月）に東海キャンパスで報告会を行い、誘客対策について議論を行いました。子ども連れが少ないことや、他の観光地に寄らずに直帰してしまう場合が多かったことから、地元の資源を使った遊具やおもちゃ作りなど子どもの楽しめるブースづくりや近隣の観光地を記載したリーフレット配布などのアイデアが出ました。

元辰野町地域おこし協力隊：村上君の実践報告

12月3日（土）・4日（日）、第40回 信州発ボランティア・地域活動フォーラム（主催：第40回信州発ボランティア・地域活動フォーラム実行委員会、長野県社会福祉協議会）が塩尻市内で開催され、長野県内各地でボランティア活動や地域づくり活動に取り組んでいる方々が集まり、活動紹介および実践報告会が行われました。

そのプログラムの中で、昨年度まで辰野町地域おこし協力隊として辰野町で活動をしていた社会福祉学部4年の村上 康介君が、「若者と地域」の分科会で実践報告を行いました。

地域研究プロジェクトの活動をきっかけに、地域の課題は地域に入らないと理解することができないと思い、休学をして辰野町に移住を決めたこと、住んでいた家にみんなが集えるようなコミュニティスペースを作り、文化体験やワークショップを開催し、様々な年代の方々が辰野町に集まれる仕組みを考えたことが報告がされました。



「困ったことがあればご近所さんが助けてくれるし、逆に困っている時は手を差し伸べる、辰野町にはお互いさまの精神が当たり前存在している。人の温かさを感じる事ができた。」との振り返りもあり、参加者からは、「高齢化、過疎化が進行している地域の中に、いかに大学生や高校生等の若い力を取り込んでいけるかが今後の課題だと思う。」との声が聞かれました。

その他、松本大学のコミュニティカフェや野菜の行商など地域と連携した活動や日本ウェルネス高校の地域住民の畑仕事をお手伝いする“お助け隊”の報告も行われました。最後には高校生が栽培したお米の販売会も行われ、大盛況で幕を閉じました。



“長野県名古屋事務所”って知ってますか？

長野県は東京銀座に県を紹介するアンテナショップを開いていますが、名古屋市にも「長野県名古屋事務所」があります。場所は、名古屋市栄にある中日ビル4階。ここにはおよそ20県のオフィスが集まっています。



多様な産業振興の活動のほか、Uターン支援、移住促進活動、特産品の販売まで幅広く活動を展開中です。



こうした名古屋事務所の活動は、経済学部がいま進めている地域づくり、地域活性化のモデル的な活動そのものとして、12月16日（金）、東海キャンパスに西原名古屋事務所長を講師に「観光ビジネス」ゲスト講義を行いました。参加者は58名。

講義では、名古屋事務所の活動紹介から始まり、県の観光資源の分析、特徴と課題の捉え方が講義され、長野県出身の学生も、「知らなかった！」というほど、丁寧に示唆に富むものでした。

講義終了後のアンケートの回収率はおよそ90%。そのうち、8割以上が家族や友人と長野県を訪れています。

こうした基盤のうえに、長野県の人口減少を食い止め、持続可能な発展のカタチをどう考えていけるか、講義の最後に若い世代への期待が語られました。



「あなたの学生生活に信州を+」「信州にあなたの学生生活を+」!

大学を体感しよう!

高遠高校スタディツアー

10月14日(金)、長野県高遠高校の2年生の福祉大スタディツアーを実施しました。参加者は同校文理進学コースの2年生29名+学年会の先生。

朝早く高遠を出たバスは10時半には大学へ。オープニングのあと長野担当の大学職員の内野キャンパス見学を行い、学生食堂で少し早めのランチを摂り、12時過ぎから人文、社会、自然、人間の4分野別の特別講義を受講しました。講義テーマは次の通りです。



- 人文分野「心理学への招待」
社会福祉学部 矢崎 裕美子 先生
- 社会分野「憲法学とわたし」
子ども発達学部 前原 清隆 先生
- 自然分野「大学で学ぶ『体育スポーツ』」
日本福祉大学の「場合」
山根 真紀 先生

人間分野「子供の貧困から福祉を考える」

●人間分野「子供の貧困から福祉を考える」
社会福祉学部 渡邊 忍 先生
それぞれの講義では、分野ごとの概念的な講義のほか、担当教員が高校時代から大学、大学院生の時期に、自分の将来をどのように考え、専門分野に分け入って来たか、ということにも触れた講義を行いました。

こうしたスタディツアーは今年で3回目。子どもの貧困は、特定の子どもたちの問題だと思っていたが、もっと広がりがあり、社会全体の問題だということが良く分かりました。

本ツアーは、高校と大学の教育連携をより豊かにする試みであり、学年会と相談をしながら企画を組んでいくというユニークな試みと言えます。



オープンキャンパスバスツアー

2016年も、毎年恒例となったオープンキャンパスバスツアーを開催しました。松本駅、塩尻駅、伊那インター、飯田インターを経由する当バスツアーですが、夏と秋合わせて約100名の高校生や保護者にご参加いただきました。

数あるプログラムの中で一番好評なのが、「長野県出身の在学生によるキャンパスツアー」です。在学生が学食体験や学部別講義体験などの会場まで案内してくれるのももちろんですが、共に行動する中で、学生生活・バイト・授業・サークルのことなど、高校生が気になっていることを直接学生に聞くことができます。

ご参加いただいた高校生からは「学生スタッフの方がとても優しく案内してくれたのでとても充実しました。今日のオープンキャンパスを通じて、ここで学びたいと改めて思いました。」などの感想をいただきました。

2017年も開催予定ですので、高校生の皆さま、ぜひご参加ください!



秋のバスツアー参加者全員で記念撮影

私の仕事 - 福祉大卒業生は今 -

社協マンが御柱祭から学ぶこと

茅野市社会福祉協議会
北原 俊憲

「やあ、協力一致で、お願いだ。」

諏訪大社上社御柱祭木遣りの中で、私が最も好きな唄です。平成28年は私が茅野市社協に入職して、4度目の御柱祭を迎えた年でした。御柱祭は、豪快で華やかなお祭りではありますが、それに携わる地元民・氏は数年前から準備にあたり、地域の子どもからお年寄りまであらゆる年代を超えて協力しなければ、御柱は曳けません。こうした諏訪人の御柱にかける熱い想いは、地域福祉活動に携わる社協マンとして、魅力を感じずにはいられません。



私は現在、総合相談、権利擁護、生活困窮、生活支援、地域福祉活動など、多岐にわたります。中でも地域福祉活動は、様々な問題が複雑に絡み合う地域社会と直に向き合うため、住民同士のつながりが希薄であることが様々な問題が発生しています。日本全国どの自治体でも様々な取り組みを展開しています。が、正解やゴールはありません。私の職場でも、10人のCSW(コミュニティ・ソーシャルワーカー)と共に試行錯誤しながら実践活動に取り組んでいます。介護保険サービスなど制度化されたサービスに繋げることはできても、制度にはそぐわない、地域のちよつとした困りごと(ゴミ出し、家屋内修理、模様替えなど)に応え

る方法は簡単には見つけれないのが現状です。

それでも、消防団やPTAの活動を通じて知り合った地域の方々とつながりを通じて、こうした課題の解決の糸口を見つけることができました。

特に御柱祭の準備において、世代を超えて作業に取り組む過程で知り合った方々が、実に様々な情報(社会資源)を持つていることに気づかされました。そして、「ちよつと困った」助けて欲しいという声に応えてくれる地域の人と沢山出会いました。それは、昔ながらの隣人関係がまだ残る諏訪地方で生活する住民が、御柱祭という長い間に蓄積された慣習や伝統を守り続ける中で、コミュニティを維持してきた一端でもあります。御柱祭が終わる普通の生活に戻っても、長期間みんな協力しあい、芽生えた人間関係だからこそ、より近く濃く感じられます。

私はこうした経験から、地域に向き合うアウトリーチという活動は、仕事や業務ではなくプライベートで築き上げる経験値も、必要であると強く感じています。それは時として、自分自身の実践活動を支えてくれる応援団にもなってくれるのですから。

(社会福祉学部卒・岡谷南高校出身)



2017年度 入試インフォメーション (※詳細は入試ガイドをご覧ください)

【対象入試】一般入試(後期)、センター試験利用入試(後期)

「手わたし」で、納得、日本福祉大学独自の出願方法

持参割 全て読んで
安心の出願

入学検定料 **10,000円** 割引

- ★出願書類を松本オフィスなどに持参すると、検定料を1万円割引します。(割引分は後日返金)
- ★当日、教職員との面談を行い、ご質問等にお答えします。また学部のミスマッチを防ぎます。
《持参割の流れ》ネット出願→検定料払い込み→出願書類をオフィスに持参
※検定料返還書類も合わせてご持参ください。(押印、口座情報の記載が必要です)

入試区分	出願期間	試験日	合格発表	
一般入試	【後期日程】 2/16(木)～3/2(木)	3/9(木)	3/16(木)	♣各入試内容については、「入学試験要項」、「入試ガイド」を必ずご確認ください。 ♣過去問題、赤本が必要な方は、松本オフィスまでご連絡ください。
センター試験利用入試	【後期日程】 2/16(木)～3/2(木)	—	3/16(木)	
スポーツ/文化・芸術分野入試	【後期日程】 2/8(水)～2/15(水)	2/19(日)	2/24(金)	

長野県地域同窓会より 2016年度 総会等開催のお知らせ

長野県地域同窓会は、下記の日程で『2016年度長野県地域同窓会総会』等を開催いたします。

高校生、在学生、卒業生及び保護者の皆様だけでなく、福祉関係の方や一般の方もご参加いただけます。

皆さまお誘いあわせの上、ぜひお越しください。

学生の実習を経験しての成長や同窓生の地域でのご活躍にご注目ください。

日時：2017年3月11日(土)10:45～16:30

会場：松本市総合社会福祉センター (JR南松本駅より徒歩5分)

内容：10:45～キャリア相談会(対象：在学生全学年)

12:00～長野県地域同窓会総会・同窓生実践発表
ソーシャルワーク実習 長野クラス実習報告会
中信ブロックの集い

◆詳細が決まり次第、Facebookにてご案内いたします。

※お申込みは松本オフィスまでご連絡ください。



【犀川スキーバス事故三十三回忌法要を執り行いました】

2017年1月28日(土)は犀川スキーバス事故から32年となり、大きな節目となる三十三回忌を迎えることとなりました。

遺族会、三重交通及び大学の三者合同で、長野市において、三十三回忌法要を執り行い、ご遺族の方々をはじめ、同窓生や地元の方々にもご参列いただきました。

日本福祉大学 北信越センター松本オフィス

〒390-0815

長野県松本市深志1-1-24

ハ絃堂ビル3階

TEL (0263)31-9011

FAX (0263)32-8018

E-mail e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp

OPEN 火曜～土曜 10:00～18:00

CLOSE 日曜・月曜・祝日

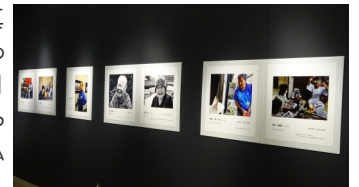


木之下晃メモリアル

知多半島版「寿齢讃歌」が開催されました

世界の音楽家“巨匠(マエストロ)”たちを撮り続けてきた木之下先生の写真展「木之下晃メモリアル」が本学東海キャンパス隣接の東海市芸術劇場で開催され、音楽家20名の演奏シーンの瞬間をとらえたモノクロの写真が会場に展示されました。

また同時に、知多半島版「寿齢讃歌」の写真展も開催され、表情豊かな80歳以上のおじいちゃん、おばあちゃんの写真が会場に並びました。くしゃつとした笑顔、力強い眼差し、日常生活のひとコマから切り取られた数々の写真は見ている私たちに元気を与えてくれます。



茅野市美術館にて、『寿齢讃歌XI』写真展が開催されます

今年度11回目を迎えるお年寄りを被写体とする公募写真展「寿齢讃歌-人生のマエストロ-」。2015年に急逝された木之下先生の意思を引き継ぎ、本年度は講師に写真家・英伸三(はなぶさ しんぞう)氏をお迎えして開催いたします。

新たな試みとして、応募者の撮影意図を生かし、誰でも気軽に参加できるよう、従来のモノクロ(白黒)の作品に加え、カラーの作品も展示される予定です。ぜひ、作品それぞれの異なる表情をお楽しみください。

◆開催日：2017年3月4日(土)～3月20日(月・祝)

※休館日：7日(火)・14日(火)

◆時間：10:00～18:00(入場無料)

◆会場：茅野市美術館 企画展示室

◆連絡 茅野市美術館 TEL:0266-82-8222

Facebook運用開始！のご案内

2017年1月末日をもちまして、松本オフィスブログを閉鎖いたします。長い間、ご愛顧いただきありがとうございました。また1月13日(金)より、新たに地域オフィスのFacebookを開設いたしました。

下記アドレスまたはQRコードより、ぜひご覧ください。

<https://www.facebook.com/NihonFukushiUnivBC/>

